

## 突然の拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の1例

高橋 宏典<sup>1)</sup> 赤路 和則<sup>1)</sup> 富尾 亮介<sup>1)</sup> 吉田 啓佑<sup>1)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

[緒言]椎骨動静脈瘻は稀な疾患であり、外傷に起因することが多いとされている。今回、突然の拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の1例を経験したので報告する。

[症例]43歳女性。突然右拍動性耳鳴を自覚した。頭部MRAで右椎骨動静脈瘻を認めた。右椎骨動脈撮影にて右硬膜外椎骨動静脈瘻を認め、瘻孔遠位は描出されなかった。左椎骨動脈撮影にて椎骨動脈合流部から逆行性に右硬膜外椎骨動静脈瘻を認めた。全身麻酔で塞栓術を施行。右椎骨動脈へballoon付きguiding catheterを誘導して右椎骨動脈を閉塞させながら、右椎骨動脈撮影、左椎骨動脈撮影を行ったところ、flowが早く瘻孔が非常に大きいため、瘻孔のみの閉塞は断念し、右椎骨動脈の親血管閉塞を選択した。右椎骨動脈より瘻孔遠位までmicrocatheter 2本(Lantern、Echelon10)を誘導した。右椎骨動脈を閉塞させながら、Lanternより瘻孔遠位へanchorとしてPODを挿入後、瘻孔遠位から瘻孔近位までcoil計20本で塞栓して右椎骨動脈閉塞した。術後DSAで右椎骨動脈完全閉塞、右椎骨動静脈瘻は消失した。術後経過良好、右拍動性耳鳴は消失した。

[考察]椎骨動静脈瘻は、突然の拍動性耳鳴で発症することもある。椎骨動静脈瘻に対する治療では、親血管を温存した瘻孔のみの閉塞が理想的であるが、瘻孔が非常に大きく親血管閉塞を選択するしかないこともある。

[結語]突然の拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の1例を報告した。